

近代日本の歴史都市

古都と城下町

高木博志 編

▶A5判・550頁／定価：8,190円（税5%込）ISBN978-4-7842-1700-7

7月刊行予定

「古都」京都・奈良、「加賀百万石」の金沢、伊達政宗の仙台など、都市は実にさまざまな歴史性をまとっている。しかしそれらは、近代化の過程で発見され、選び取られたイメージであった。本書は「都市の歴史性」をキーワードに、分野を超えた研究者たちが参加した京都大学人文科学研究所・共同研究「近代古都研究」班の成果。

◎ 内容目次 ◎

序—歴史都市の歴史性—

高木博志（京都大学教授）

I 古都—京都・奈良・伊勢

修学旅行と奈良・京都・伊勢—1910年代の奈良女子高等師範学校を中心に— 高木博志

郡区町村編制法と京都—区政論の深化のために—

小林文広（奈良大学教授）

創建神社の造営と近代京都

清水重敦（京都工芸繊維大学准教授）

1893年オーストリア皇族の来京

高久嶺之介（京都橘大学教授）

明治期洛外の朝廷由緒と古都

谷川 穰（京都大学准教授）

—洛北岩倉の土器職人・横木丸太夫の日記から—

幸野樸嶺《秋日田家図》について—歴史画としての風景—

高階絵里加（京都大学准教授）

橋梁デザインに見る風致に対する二つの認識

中川 理（京都工芸繊維大学教授）

—京都・鴨川に架け替えられた四つの橋をめぐって—

京都の風致地区指定過程に重層する意図とその主体

中嶋節子（京都大学准教授）

歴史を表象する空間としての京都御所・御苑

河西秀哉（神戸女学院大学専任講師）

権門寺社の歴史と奈良町の歴史との間

幡鎌一弘（天理大学おやさと研究所研究員）

平城神宮創建計画と奈良—「南都」と「古京」をつなぐもの—

黒岩康博（天理大学助教）

『神都物語』—明治期の伊勢—

ジョン・グリーン（国際日本文化研究センター教授）

II 城下町—金沢・仙台・尼崎・岡山・三都

「城下町金沢」の記憶—創出された藩政期の景観をめぐって—

本康宏史（金沢星陵大学教授）

誰が藩祖伊達政宗を祀るのか

佐藤雅也（仙台市歴史民俗資料館学芸室長）

武士と武家地の行方—城下町尼崎の19世紀—

岩城卓二（京都大学准教授）

帝国の風景序説—城下町岡山における田村剛の風景利用—

小野芳朗（京都工芸繊維大学教授）

高等学校制度と地方都市—教育拠点の設置実態とその特質—

田中智子（同志社大学助教）

近代「三都」考—三府と都市制度—

丸山 宏（名城大学教授）

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票

発行：思文閣出版

（京都 取引コード 3402）

冊数	冊	近代日本の歴史都市	本体7,800円（税別）	ISBN978-4-7842-1700-7
お名前		tel		
		e-mail		
ご住所	〒			
送本方法	☐ 書店経由（このちらしを書店にお渡し下さい） ☐ 代 引（書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い）			書店番線印

近代京都研究

丸山宏・伊従勉・高木博志編

歴史都市・京都は、近代に大きく変わったまちであった——。近代の京都には研究対象になる豊富な素材が無尽蔵にある。本書は、京都という都市をどのように相対化できるのか、普遍性と特殊性を射程に入れながら、近代史を中心に分野を超えた研究者たちが多数参加し切磋琢磨した京都大学人文科学研究所・共同研究「近代京都研究」の成果。

▶A5判・628頁／定価 9,450円

ISBN978-4-7842-1413-6

近代日本と地域振興 京都府の近代

高久嶺之介著

京都府下における明治前期の京都富津間車道の開鑿、明治前期～中期にかけての琵琶湖疏水と鴨川運河の開鑿、明治初期～昭和の敗戦直後までの天橋立の保存とその振興、明治初期～昭和の敗戦直後にかけての童仙房村の開拓、という特定のテーマを取り上げ、地域振興の視点から考察する。

▶A5判・364頁／定価 6,825円

ISBN978-4-7842-1570-6

文人世界の光芒と古都奈良 大和の生き字引・水木要太郎

久留島浩・高木博志・高橋一樹編

近代奈良において水木要太郎(1865-1938)により形成された水木コレクションを主な分析素材とし、日本史・考古学・建築史・国文・美術史・地理学等にわたる学際的な一書。多岐にわたるコレクションの形成過程や収集意図の持つ歴史的意義を解明。国立歴史民俗博物館での共同研究の成果。

▶A5判・508頁／定価 8,190円

ISBN978-4-7842-1481-5

歴史のなかの天皇陵

高木博志・山田邦和編

天皇・皇族の墓である陵墓が各時代にどう在り、社会のなかでどのように変遷してきたのか、考古・古代・中世・近世・近代における陵墓の歴史をやさしく説く。京都アスニーで行われた公開講演に加え、研究者・ジャーナリストによるコラムや、執筆者による座談会を収録。

▶A5判・340頁／定価 2,625円

ISBN978-4-7842-1514-0

※鉄道日本文化史考

宇田正著

日本の近代化のなかで陸蒸気＝鉄道がもたらしたものは、はかり知れない。本書では「文化の鏡」としての鉄道をとりあげ、知識人の体験や一般人の認識から民俗・観光(巡礼)・教育との関わりを通して、鉄道が日本人の内面的形成に果たした文化的役割を明らかにする。

▶A5判・352頁／定価 5,775円

ISBN978-4-7842-1336-8

都道府県庁舎 その建築史的考察

石田潤一郎著

明治維新以降、今日まで100件をこえる都道府県庁舎が建設されてきた。本書では、一次史料をもとに同庁舎の歴史的展開を個別にあとづけ、地方行政制度史・地域史の中で位置づけるとともに、図版史料によってその平面計画及び立面意匠の具体的な把握も試みた。収録図版200余点。

▶A5判・448頁／定価 9,030円

ISBN4-7842-0775-9

視覚の一九世紀 人間・技術・文明

横山俊夫編

視覚という世界の広がりや視覚メディアを中心とした19世紀の文明史的研究。【内容】平地劇から舞台劇へ／蔵書家の視界／明治写真考／オーストラリアの博覧会におけるジャパン／巨船グレート・イースタンの視像／真山青果の歴史観を求めて／富士の近代／1906年ロンドン苦汗産業博覧会／病いの世紀 他

▶A5判・464頁／定価 6,090円

ISBN4-7842-0700-7

幸田露伴の世界

井波律子・井上章一編

難解であるとの理由から今まで全面的な研究がなされてこなかった幸田露伴。さまざまな分野の研究者が集まり、小説や評論など文学面はもちろんのこと、都市・遊技・旅行・自然観察・人生論等々の著作を通じて多様な角度から露伴にアプローチした、国際日本文化研究センター共同研究成果13篇。

▶A5判・318頁／定価 5,250円

ISBN978-4-7842-1444-0

みやこの近代

丸山宏・伊従勉・高木博志編

平安や桃山時代がしばしば話題になる歴史都市・京都は、実は近現代に大きく変わったまちであった——。「近代の歴史都市としての京都」についての基本的な諸問題を多角的に論じ、さまざまな分野の具体的な主題をもとに、近代現代の京都の根本問題を見通す視座を形成しようとする試みの85篇。『京都新聞』に連載されたものを再構成。

▶A5判・268頁／定価 2,730円

ISBN978-4-7842-1378-8

北垣国道日記「塵海」

塵海研究会編

明治期の地方官である北垣国道(1836-1916)の、京都府知事就任(明治14年)から北海道庁長官などを経て、京都に隠棲した明治34年までの日記を翻刻。明治期地方官の実情を記した第一級資料であり、中央政治史や地方自治・土木史・北海道史研究の進展に寄与する資料ともいえる。

▶A5判・650頁／定価 10,290円

ISBN978-4-7842-1499-0

近代地方政治と水利土木

服部敬著

淀川・安威川・神崎川の水利構造の変遷と分析、沿岸住民の治水運動と中央・地方議会と政党の対応、近代化の意味と中央集権的近代国家の性格を地域史の視座から問う。【内容】近代国家の成立と水利慣行／水利組合の成立とその機能／淀川改修運動と地方政治の動向／日露戦後の農政改良政策と水利問題

▶A5判・400頁／定価 6,930円

ISBN4-7842-0873-9

幕末維新期の陵墓と社会

上田長生著

陵墓に政治的意味を付与し、祭祀を行おうとする政治権力(朝廷・山陵奉行)と在地社会の軋轢・葛藤が最も明確に現れた陵墓管理・祭祀に注目する。社会における天皇の位置づけや天皇認識を町・村社会の具体的なレベルから広範囲かつ実態的に描き出し、幕末の天皇・朝廷と社会の関係を解明する。

▶A5判・400頁／定価 6,510円

ISBN978-4-7842-1604-8

近代日本公園史の研究

丸山宏著

近代欧米都市起源の公園が、いかに近代化の装置として導入され、衛生問題・都市問題・記念事業・経済振興策・政治的役割などさまざまな問題を孕みながら受容されてきたか、その歩みを社会史のダイナミズムのなかにとらえた一書。

▶A5判・400頁／定価 8,820円

ISBN4-7842-0865-8

近代日本高等教育体制の黎明

田中智子著

交錯する地域と国とキリスト教界
主に1870年代初頭から1890年代初頭までを対象とし、各地域の高等教育体制の展開過程を、府県という地域行政主体、文部省という国の行政主体、伝道を志すキリスト教界、という三勢力の交錯のうちに描く。高等教育史を府県・国・民間勢力の相互関係史として再構成する一書。

▶A5判・448頁／定価 7,350円

ISBN978-4-7842-1618-5

※万国博覧会の研究

吉田光邦編

19世紀、体制を整備しつつあった国家・近代的な企業・国民という意識に支えられた大衆社会を基盤にスタートした新しい情報メディアの場、博覧会の諸相を明かす学際的研究。【内容】博覧会の背景／万国博覧会と日本の「美術工芸」／パリ博覧会日本館・1937／博覧会と大量生産技術の移転／明治初期の京都博覧会／博覧会と衛生 他

▶A5判・374頁／定価 6,825円

ISBN4-7842-0414-8

京都の歴史災害

吉越昭久・片平博文編

歴史災害を復原することは、過去の人々の災害への対応や考え方を知ることと共に、減災の知恵を学ぶことでもある。本書では、歴史上、京都を襲ったさまざまな災害をとりあげ、地理情報システム(GIS)などによる災害範囲や規模の復原、特徴や被害発生率の社会的背景の分析、また人々の取り組みなどを論じる。

▶A5判・322頁／定価 2,415円

ISBN978-4-7842-1643-7

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。